吹田街道漫歩　道標に愛を告げる

新山ひろし

吹田街道は、東は南町道標で亀岡街道（高槻街道）から分かれ、吹田の南部をほぼ東西に通り、西は能勢街道とつながっている。吹田街道は、言わば「街道をつなぐ道」であり、距離も短いし、影の役割だし、何だか、かわいいなと僕は感じる。中でも、街道に沿って立つ道標が愛しくてならない。ということで、今回は、吹田街道にある道標に愛を告げてみることにしよう。いささか恥ずかしいが、道標と僕とのツーショット写真も狙ってみたい。これが「溺愛主義」というものである。

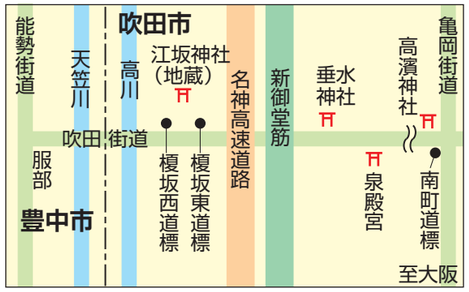
始まりは「南町道標」

まず、亀岡街道と吹田街道の分岐点にある「南町道標」。まず、寄り添って自動シャッターでパチリ。僕の後ろが西に向かう吹田街道で、右が亀岡街道である。道標には、右へ行けば茨木・富田・勝尾寺…とある。左へ、吹田街道を行けば中山・池田・伊丹とある。江戸時代のものらしいが、石の汚れ方に年季が入っている。説明板によれば「昭和57年に埋没部分を引き上げ、さらに保存のために、原位置から北西へ約30センチ移動させた」とある。車に追突されないようガードが付いているが、きっと、何度もぶち当てられてきたのだろう。道標は、年中休まず、雨ざらしになりながら、街道を行く人に行く先を示しているのである。実に健気だ。「ごくろうさま」と手を合わせた。

さて、吹田街道を行こう。高濱神社を過ぎ、細い道を行く、JRの線路の下をくぐり、泉殿宮に達する。右には、アサヒビールの巨大な工場が見える。泉殿宮を過ぎると、道は上り坂となる。阪急豊津駅へ向かう高台の道である。ここは、千里丘陵にぴったりとより沿う道なのだ。豊津駅は、糸田川と上川、二つの川の中州にある。この高い所にある川が、何度も豊津に洪水をもたらした。

垂水神社はマンション建設反対運動の中だった

吹田街道は、垂水神社の高台の麓を通っている。旅人たちは、垂水神社に詣でて、きっと湧水を飲んだことだろう。垂水神社の水は、千里丘陵の岩盤を通過することでミネラルいっぱいの名水となって湧き出ているのである。この丘陵は縄文時代の海岸線で、約5000年ほど前、この丘陵に海水が打ち寄せていたという。「縄文海進」というらしい。この神社から、海の方を見ると、まさに下の方に大阪市が見える。あれはみんな海で、上町台地だけが背骨のように見えたのだろう。ところで、いま、この神社は危機にあるという。本殿のすぐ側にマンション建設計画が持ち上がり、今にも、実施されそうなのだ。マンションができたら、垂水の名水の水脈も切れてしまうかも知れない。何とかマンション建設をストップできないか。心配だ。



発掘された地蔵たちの声に耳を澄ます

さて、新御堂を越え、名神の下をくぐって、吹田街道は江坂へ。ここら辺りはやや道が細くなり、昔の街道の面影を色濃く残している。北側は垂水神社の丘陵の続きで、縄文海進の名残が残っている。そこに江坂神社（感神宮）があった。その側に、名もない地蔵が何十体も集められている。この地蔵たちは、地下鉄御堂筋線の工事の時、よけられたり、掘り起こされたりしたものである。その現場で事故が頻発したらしい。とにかく、地蔵が破壊されないで、この神社に集められ、地蔵同士が寄り添っているのは、僕には、心安らぐ光景に見える。

街道に残る道標の魅惑

高台を降りて街道に戻ると、道の片隅に小さな道標が見える。南面して「左リ　勝尾寺」と刻まれている。説明板には「榎坂東道標。…この道標は、吹田街道から大阪市十八条に通じる古道が分岐する所」とある。大阪から北に向かい、淀川、神崎川を越えて、ここに出て左折して勝尾寺に向かうのである。

さて、そこから数分、今度は二基の道標「榎坂西道標」が建っている。一つは、「右かちをじ」。ただ、「を」の下は土に埋もれている。感触はザラッとしているが、刻まれた文字は達筆で美しい。説明板を見ると「右へ進むと高川を渡って三国街道を通り、上新田から勝尾寺街道へと続いています」とある。つまり、ここを右に曲がって北に向かうわけである。さっきの「東道標」の左折は、この「西道標」までの道を示していたのだ。実に丁寧に道順を示している。観音三十三か所巡り23番箕面勝尾寺は、江戸時代、熱烈な観音信仰のメッカであった。この道標に寄り添えば、巡礼者の息遣いが生々しく伝わってくる。

一方、右の背の高い石標には「すぐ　はっとり・あまがさき」とある。「すぐ」は、「まっすぐ」の意味で、吹田方面から、まっすぐに行けば「服部・尼崎」に出られることを示している。

道を示すという愛

吹田街道をさらに江坂から西に行けば、高川、天竺川という二つの川を越えて「足の神様」の服部天神に到着する。この神社を能勢街道が南北に通り、吹田街道と交差している。これが吹田街道の終点である。短い道のりではあったが、何だか心あたたまる散歩だった。昔の人々は、僕が思っているより、いろんな場所を軽やかに遠くまで移動したのかもしれないと思った。

そして、今日、石の道標たちは、方角を示すだけではなく、遠い時代へとタイムスリップする手助けもしてくれた。街道には、埃もあれば、雨も嵐もある。けっこう、キツイ仕事である。道標に「末永く、お元気で」と愛を告げた。

1. 南町道標のアップ。
2. 南町道標。左が吹田街道。手前が亀岡街道。はじまりの一枚、パチリ。
3. 現在、マンション問題でたいへんな垂水神社。みんなで応援しよう。水を守ろう。
4. 泉殿宮
5. 感神宮、江坂神社、スサノオ神社。いっぱい名前を持っている、高台の社だ。
6. 江坂神社の地蔵たち。北大阪急行の工事で掘り出された。この場所でゆったりしている感じだ。地蔵との対話はいいものだ。
7. 榎坂西道標の二基と記念撮影。かわいい、かわいい。
8. 榎坂東道標。勝尾寺への観音道である。

■参考資料
●「きりえさんぽ吹田・旧街道を行く」加賀真砂子著・吹田市市長公室
●「大坂の街道と道標」武藤善一郎著 サンライズ出版
●「わかりやすい吹田の歴史・本文篇」吹田博物館
●その他、ネットの「吹田街道」関係ホームページ